

令和6年度 港楽小学校 学校努力点

1 研究主題

ゆるやかな協働性をベースに、自律して学び続ける子の育成 —マイプラン みんなでゴール—

2 研究のねらい

現在の日本社会は、人口減少や少子高齢化などいくつもの課題を抱えている。一方で、DXの進展ウェルビーイングの深化などにより、これまでの社会のあり方や人々の価値観が多様化してきている。さらに、グローバル化も進展し、地球規模の課題にも対応することが求められ、世界の人々と互いに尊重し合い、対話しながら、答えを探し、未来をきり拓いていくことが求められている。

一人一人が自分らしく幸せに生きながら、未来を他者と共につくっていくことが求められる時代において、現在の教育が新たな時代観を踏まえた教育になっているか問い直す動きが見られるようになった。そのような動きの中、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、社会構造の変化の中で、以下の3点が課題として生じているのではないかと提言されている。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 学ぶ意欲が低下しているのではないか② 教師からの指示がないと学べないようになっているのではないか③ 他者と協働し、自ら考えぬく学びが十分なされていないのではないか |
|---|

これまでの教育のあり方を見直し、社会のあり方に合わせて変化させ、子どもたちが自分らしく幸せに生きていくことができるように「子ども中心の学び」を実現することが求められている。

本校の児童は、昨年度までの努力点（R4：思ったこと、気付いたことを伝えよう、R5：おっ、だれか話してるぞ！みんな！聞こう！聞こう！）の成果もあり、対話力が高く、自分の考えを伝えたり、授業の担い手として活躍したりすることができている。一方で、教師や友達の考えに強く依存し、与えられた課題には取り組むものの、自ら課題を見付けて取り組んだり、自分の力を高めようと努力したりする姿はあまり見られない。これは、先ほどの提言の①と②に該当する。これらのことを踏まえ、今日的な課題に対応するために、本校児童の強みである、仲間の力を借りたり、人に自分の力を貸したりすることを生かし、自分にあった学びを模索し、学び続ける「ゆるやかな協働性をベースに、自律して学び続ける力」を育成することが、必要不可欠であると考えます。

「ゆるやかな協働性をベースに、自律して学び続ける力」を育成するためには、児童の学びに一定の方向性を示したり、児童一人一人の力を見取り、児童の学びの効率を最大限に高め、適切な支援を行ったりする教師の存在が不可欠である。教師は、児童の意思決定を促し、その決定を尊重、児童の学びに伴走していく。教師が教科や単元全体を見通し、それに合わせた学習活動の工夫や個に応じた学習プログラムを展開することで、「自律して学び続ける力」の土台を築いていくことができると考える。

児童が、自らの課題を自己決定し、最後までその課題解決の方法を模索し、取り組む。この課題解決を成し遂げた経験を基に、更に自分を高めようとする。この繰り返しを通じて、研究主題である、「ゆるやかな協働性をベースに、自律して学び続ける子の育成—マイプラン みんなでゴール—」を目指していきたい。